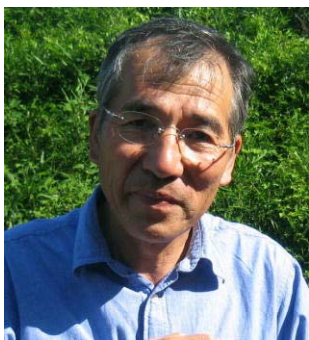


「農業技術の匠」：^{さとうたみお}佐藤 民夫 さん（ 宮城県村田町 ）

～ 新しい育苗・定植技術によるブロッコリー・スイートコーンの作期拡大 ～



【佐藤 民夫さん】

1 技術確立の背景(目的)

佐藤さんは村田町の直売所へブロッコリーやスイートコーンを中心に野菜を周年出荷しています。直売所には多くの人が出荷するため、同じ品目の出荷時期が重ならないようにと、出荷期間をできるだけ長くする工夫をしています。

ブロッコリーでは老化苗（スーパーセル苗）を使った定植技術、スイートコーンでは定植時に深植え＋マルチ栽培を実施しています。いずれの技術も佐藤さんが営農を通じて発想し、試行を重ねて成功した内容です。

2 技術概要（技術効果）

（1）ブロッコリーの老化苗（スーパーセル苗）活用技術

①市販の育苗培土を利用し、セルトレイで通常の育苗を行います。

②その後は追肥をせず、しおれない程度かん水を行います。

③60日くらいはそのままおいておくことができます。

④夏期に定植する場合はやや徒長気味に育て深植えすると、乾燥にも強く順調に活着します。

・この技術を活用すると、苗を無駄にすることなく、自分や畑の都合の良いときに定植することができます。

（2）スイートコーンの深植え＋マルチ栽培技術

①3月に播種し、温床で育苗します（128穴セルトレイを利用）。

②やや高め（30cm）にうねを立てます。

③深さ15cm程の植え穴を開けて、定植します。

④上から透明マルチを掛け、苗が烧けないように切り込みをいれます（穴がすっかり開かないように）。

⑤葉がマルチに触るようになったら、しっかりと穴を開けます
・宮城県では通常霜が降りなくなる5月上旬頃からの定植ですが、この技術を使うと4月中旬に定植でき、7月中旬ころから出荷が可能です。

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

佐藤さんが出荷する野菜の売れ行きは好調で、スイートコーンなどは他の人よりも早く出荷することから、とても人気があります。直売所の出荷組織代表である佐藤さんは、他の人にもこの技術を活用して、直売所を元気にして欲しいと、栽培講習会などで積極的に技術を公開しています。



【ブロッコリーの管理作業】

※最寄りの普及指導センター

宮城県大河原農業普及指導センター
住所：宮城県柴田郡大河原町字南129-1
TEL：0224-53-3516

<技術のポイント>

育苗・定植の工夫により、出荷期間を拡大

(1) ブロッコリー老化苗活用技術について

①通常育苗との違いについて

	通常育苗	老化苗利用
育苗管理	市販の育苗培土の窒素分が切れるころから、かん水を兼ねて追肥を行う。	育苗培土の窒素分が切れても、追肥は行わず、かん水のみ。
定植適期	播種から20～30日前後	播種後30日を過ぎても定植可能
苗の形状など	青々として、みずみずしい	下葉がやや枯れあがり、赤くなるが、堅くしまった苗になる

②老化苗利用技術を使った工夫について

佐藤さんは夏期は200穴のセルトレイで育苗し、やや徒長気味の苗をつくる。8月頃の定植は畑が乾燥していることが多いが、この苗を深植えする（根鉢が地表よりも3cm以下になるように）と、かん水しなくても活着し、その後の生育も問題ない。

なお、技術内容は、徳島県などで研究されている技術と概ね同様であるが、地域の土壌条件等も踏まえ、苗を徒長気味に育てる、定植前日に液肥を与えて活着を良くするといった独自性がある。

(2) スイートコーンの深植え+マルチ栽培技術

●栽培暦

	3	4	5	6	7	8
露地栽培		●	▲	■		
深植え+マルチ栽培	●	▲	■			

温床育苗

・宮城県では、5月上旬頃まで降霜のおそれがあるので、露地は5月中旬以降の定植となるが、この技術を使うと4月中旬の定植が可能。

●断面図

